新潟・富山・長野・岐阜の 4 県にまたがる北アルプス（飛騨山脈）。標高 3,000m 級の山々が連なり、多くのアルピニストに親しまれています。合津さんの連載は今回で 10 回目。最終回です。山の魅力を沢山伝えてくださり感謝です！！

紅葉台 新聞

第１４９号
２０２４年
９月日２８日
発行人：関谷　孝

遥　か　な　る　北　ア　の　山　々

紅葉台　３街区　　合　津

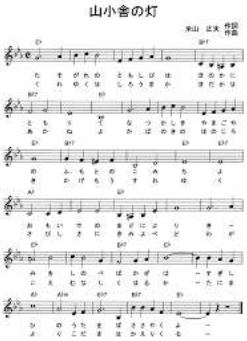
(10) NHK ラジオ　と　山の話題

折々に　北アへ　雲ノ平へ　おもいをはせることがあります。その時 NHK ラジオの存在が　我が山への思いを　さらにかきたて　いろどりを添えてくれています。ラジオに感謝です。

101　［　ラジオ歌謡　］　より　『山小屋の灯』

終戦直後　殺伐とした日本人の心に　干天の慈雨のごとくラジオ歌謡のメロディーが染みわたり　受け入れけられていったとか。
昭和 22 年に発表されたのが『**山小屋の灯**』。その詩の中に
♪ 暮れゆくは白馬か　穂高はあかねか・・　♪

というフレーズがありました。
北ア連峰のほぼ北端に位置する白馬と　南端の穂高が同時に見られる場所はどこか。当時　山岳人の中で静かな論争?になっていたとの記憶があります。
歌が発表されてから十数年後　立山連峰を縦走の折　スゴの乗越小屋で耳にした会話がありました。
「『山小屋の灯』で　白馬と穂高が同時に見られるのは　この小屋しかない」。
作詞者　米山正夫氏のコメント　―　歌での山小屋は　具体的には存在しません　―　を思いだしながら　熱き会話に耳をかたむけていました。



山を歌いあげたラジオ歌謡では　昭和 26 年に『あざみの歌』がありました。。
♪　心の花よ汝はあざみ　さだめの径は涯てなくも　かおれよせめて我が胸に　♪
さらに　昭和 27 年には　『**山のけむり**』
♪　幾年消えて流れゆく　思い出のああ夢の一筋遠く静かに揺れている　♪
両曲とも　耳に残るは　伊藤久男氏の力強い歌声です。

102［　ラジオ深夜便　］　より　『地球はたしかに　公転している』

槍ヶ岳山荘のご主人：穂刈氏は　所有される山小屋と槍ヶ岳の間に沈む夕陽の写真を超望遠レンズで撮ろうと　美ヶ原高原に連日歩を運んだ時があったと　深夜便コーナで語られていました。初日にとった写真と同様に小屋の右肩に落ちる夕陽の写真をとるには撮影場所を　毎日 30m ほど 南の方向へ　駆け足で移動しなければならなかったとのことでした。

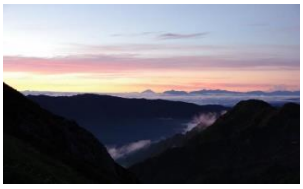
103　［　ラジオ投稿番組　］より　『北アから　朝鮮の山が見えた』

NHK ラジオ深夜便に　登山愛好者の投稿番組として［我が心の山］というコーナーがあります。その　2023 年 11 月　放送分より
我がアルバイト先の雲ノ平に宿泊し水晶岳に登頂して戻って来た高校生の言
・・・　「頂上から　はるかかなたに　朝鮮の山が見えた」。・・・
それは　多分　加賀白山のこと。感動して少し涙ぐんでいる彼の言葉に聞きいっていました。カールブッセの詩がありました。
「山のかなたの空遠く
幸い住むと人のいう
ああわれ人ととめゆきて
涙さしぐみ帰りきぬ　―　」

山から遠ざかること　すでに 10 年ほどとなりました。
北アなつかし　はるかなりです。萩原朔太郎の詩がうかんできました。
「フランスへゆきたしと思へども
ふらんすは　あまりに遠し
せめて新しき背広を着て旅に出ん」。
そして　我もまた
「北アにゆきたしと思えども　雲ノ平はあまりにも遠し　せめて
写真を眺め　ラジオ番組に参加して
北ア・雲ノ平をしのばん」。

10 回にわたりました［遥かなる北アの山々］。ありがとう　ございました。

槍の穂先　と　肩の小屋


加賀白山遠望

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。